

5. 千住の隠れた資産 路地裏の蔵を生かした町・環境づくり

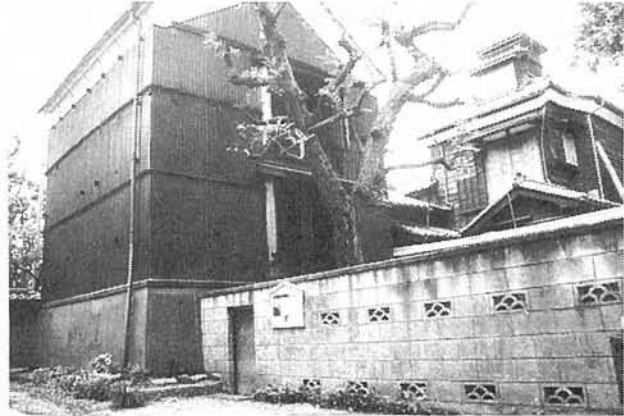
「千住・町・元気・探検隊」
(東京都足立区)

1. 活動の背景と目的

「千住・町・元気・探検隊」は、旧千住宿周辺地域に現存する蔵の棟数と位置、保存・使用状況を把握するとともに、イベントなどを通して千住の隠れた資産としての「蔵」にひかりをあててきました。

今後、調査の範囲を千住全体へと広げると同時に、次なるステップとして、これまでの活動の中で発見した「蔵」を活用しつづけていくための下地づくりが重要になっています。

このため、出来るだけ多くの人々に千住が「蔵のあるまち」であることを知ってもらい、その活用の気運を高めることをねらいとした「蔵イベント」や、蔵もちさん同志、あるいは蔵もちさんと探検隊や市民との交流を育む仕掛けづくりを進めようと、考えました。



街中に佇む蔵

これまでの活動実績 (1997~1998年度)

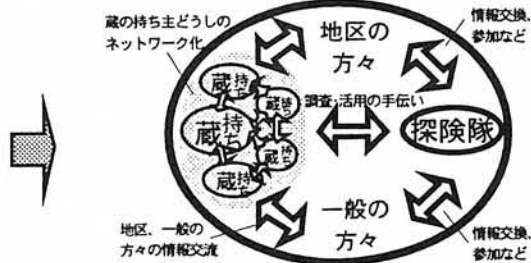
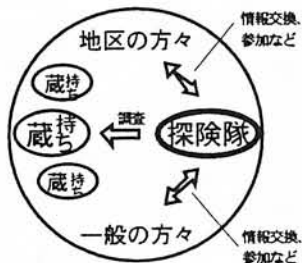
- ① 千住の蔵の分布と成り立ちを知る
- ② 個々の蔵の詳細調査
(ソフト・ハードの両面から)

- 悉皆調査と図面による記録
- 成果の発表・公表
- イベントとして一般の方の参加を得る
- 蔵の持ち主に魅力を伝える 等

これからの活動方向 (1998・1999年度以降)

- ① 千住の蔵の分布と成り立ちを知る
- ② 個々の蔵の詳細調査
(ソフト・ハードの両面から)
- ③ **蔵の再生・活用の支援**

- 悉皆調査と図面による記録
- 成果の発表・公表
- イベントとして一般の方の参加をよりおおきく育む
- **蔵の持ち主のネットワークづくり、蔵活用の手伝い** 等



II. 活動の内容

このような問題意識にたち、「千住・町・元気・探険隊」では主に、次のような活動に取り組みました。

1 千住の蔵の悉皆調査と図面による記録の継続

1998年度までに旧千住宿地区を中心に悉皆調査を行い、約50棟の蔵を確認しました。このうち、千住大川町の「小泉さんの蔵」「柘植さんの蔵」について、実測調査を行い、図面による記録を行いました。

2 「くらもちさんニュース」の発行

「くらもちさんニュース」として、平成11年10月現在vol.4まで発行しました。また「くらもちさん座談会」を2回開催し、千住以外の地域の方にも参加して頂きながら、蔵やまちについてのお話をしていただき、「くらもちさんニュース」に掲載しました。

3 「蔵イベント」の実施

蔵イベント『オータムアドベンチャー』を行い、まちの内外の多くの人々に、千住の隠れた資産である蔵について知ってもらう機会づくりをすすめました。次のような取り組みの中で、歴史の中で育まれた千住のまちと蔵の関係について、沢山の方々に知ってもらうことに成功しました。

<千住・蔵の町展示会>

千住の町に残る蔵をパネルを中心として紹介。千住の蔵と蔵に関する活動をわかりやすく知っていただける展示会を開催。

◇10月1日(金)～11日(月)

10:00～17:00

・千住宿歴史プチテラス(蔵のギャラリー)にて。平日平均7名程度、休日20名程度。合計約120名程度が参加した。

◇10月9日(土)16:00～「日本の蔵」スライド講演会(講師:荒居康明)

・千住宿歴史プチテラスにて。来訪者は約15名、5名がスタッフで参加した。合計約20名が参加した。



千住宿歴史プチテラス内の展示

<千住・蔵ウォークラリー>

◇10月1日(金)～11月末日

千住町並みガイド「すごろくマップ」を手がかりに町歩きを楽しむイベント。すごろくマップは、北千住近隣の商店などで無料配付。

<千住・町歩き～蔵のある風景を歩く>

生活の町千住の中で、「化石」としてではなく元気に息づく歴史に触れ、蔵の成り立ちなどいろいろな解説を聞きながら、町を巡るイベント。

◇10月5日（火）、7日（木）、10日（日） 各日13時～17時頃迄実施。

・10/05：15名参加+スタッフ2名、10/07：17名参加+スタッフ2名、10/10：30名参加+スタッフ7名。合計62名が参加した。

<路上アート展・結>

千住の町をギャラリーとして、路地や広場などに、オブジェや絵、写真などの展示。

- ・露地／ウルタ歯科前：三好「たどりついたところ」
- ・露地／甲田米展壁面：今泉
- ・露地／織畑眼科壁面：長谷川
- ・露地／山路医院フェンス：河口
- ・室内／岡田家店舗：井上「蒼りんごを赤くする神様」、大倉「路地」、竹井「爪日記」、井上&今泉「ビデオ」
- ・室内／千住三丁目空き家：加藤、重田「溜まっているところ、通っているところ」
- ・神社仏閣／本氷川神社：永治（写真）、服部「青空の夢」、池（パフォーマンス）
- ・神社仏閣／金蔵寺：榎本（写真）
- ・空き地／山路医院前：岡部（絵）
- ・空き地／テラー菅原跡：斎藤、佐藤、松本、前田「農民の座布団」



まちあるきの様子

III. 活動の効果及び今後の課題

● 活動の効果について

蔵イベントについては、多くの人々に千住の隠れた資産「蔵」を知ってもらうとともに、千住のまちへの誇りや愛着を育む機会となっています。例えば中心市街地活性化基本計画において「蔵」が大きくクローズアップしてとりあげられるなど、「蔵のあるまち」として区民等の再認識もすすみつつあるようです。このような視点から、「蔵イベント」を次年度も継続していきます。

「くらもちさんニュース」の発行および「くらもちさん座談会」の実施は、「くらもちさん」同志の新たな出会いの場ともなっており、これを機に互いの蔵を訪れるなど、千住の内外に新たなネットワークを形作りつつあります。生まれかけた「つながり」の芽を今後とも着実に育てていくために、「くらもちさんニュース」を継続的に発行していくことが重要と考えています。

● 今後の課題について

千住のまちにおいても、毎年のように蔵が少しづつ姿を消しつつあります。

現在私たちの活動は、蔵の保全と活用にむけた下地づくり段階にあり、イベント時などにおいて唐突に提案を行うことはむしろ危険と判断しています。その一方で、「くらもちさん」とのつながりも醸成されつつあり、まちづくりへの具体的な貢献を図っていくためには、継続的に研究を進めていくことが重要と認識しています。

99年度は「路地裏空間の活用方策」については、蔵の活用事例の収集を行う程度に留まりました。2000年度は蔵活用に関わる建築やまちづくり手法の研究を深化し、具体の提案をまちへと投げかけていきたいと考えています。